

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## 果樹の実りの第1号は かわいいサクランボ!

附属幼稚園には、四季折々、目だけではなく舌も楽しませてくれる果樹が植えられています。第一号はサクランボ。今年には鳥害に合うことも無く、無事子ども達の口に届きました。

①色づいていく過程を見るのも、貴重な体験です。青い実に気づく子は少ないからか、「サクランボの実がついてるよ～」と気づかせたいのでしょうか。先生が一枝手折って、お部屋の前のテラスに生けてありました。しばらくして色づいた実は、それはそれはきれいなオレンジ色や朱色のかわいらしい形のサクランボでした。

②子どもたちは、食べることにに対しては極めて食欲です！これは大事な本能ですから、良いことです。誰の発案かわかりませんが、こういうときばかりは「よいしょ、よいしょ！」と力を合わせて踏み台を運びます。

③低いところを食べ尽くしたら、高いところを狙います。最後の手段はやはり大人の力を借りることでしょう。上手に甘えて、抱っこしてもらいます。食べるためには、誰だってオーケー！為家さんにも「ぼくも抱っこして～！」と次々におねだりです。ひよいと軽々持ち上げる為家さん。色づく前から鳥よけの網を張って、守ってくれていたのも為家さんでした。③子どもたちが得がたい体験ができるのは、こうした見えないご支援あつてのことなのですね。感謝！！

## 「見守る」という援助について

幼稚園の現場でよく使われることばに、「見守る」という言葉があります。もしかすると幼児教育の世界では当たり前の「専門用語」なのかも知れません。「保育案」の作成時には、頻りに耳にしました。長いこと小学校現場で働いてきた私は、初め「何もせずに見ていること」と、とても無責任でいい加減なことのように思われました。しかし、「見守る」というのは、保育者の基本的な「身構え」のことであると捉えれば良いことに気づきました。幼児期は、子どもたちの自発的な行動を促し、主体性を育てることが大切ですから、いつでも、まず子どもの「様子を見る」そして「待つ」姿勢で身構えるのです。「見守る」は「観察している」とも言えます。その時、保育者の頭の中は、「こう言ったらこう言おう。」「こう言ったらこれを出そう。」「こういうふうに幾手も先を考らしている。」「しかも同時に複数の子どもを視野に入れて、同じように考えているのですから、それはまるで将棋や囲碁のようであり、私からすれば神業です。もちろん、身構えていれば、危機的事態にも俊敏に対処できます。保護者の方は、担任の先生との会話の中で時折耳にすることがあると思えますが、このように「見守る」とは、極めて高い保育スキルだと考えて下さい。決して、「何もしない」とや「勝手にさせている」という意味ではありません。ただ、言葉を使う側は、一般的な解釈を承知した上で、相手に応じて誤解のないように使う必要があるでしょうね。

## 「三行詩」作ってみませんか？

PTA全国協議会主催「楽しい子育て全国キャンペーン」家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さというチラシが来ています。

三行といっても「短い文」ほどの緩い規定です。対象は、小・中学生、保護者、教職員など。「など」というのですから本当に子どもが作ったものであれば「幼児」もいいのでは？と思います。ともかくお家の方々には、人生（子育て）を豊かにするためにも、いろんなことに興味を持って、取り組んでみることをお勧めします。優秀作品は、カレンダーなどになるようです。興味のある方は、職員室の玄関に掲示しています。応募用紙もあります。お声かけ下さい。

